

Title	慶應義塾大学 経済思潮講演集
Sub Title	
Author	加田, 哲二
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.11 (1922. 11) ,p.1631(131)- 1634(134)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19221101-0131">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19221101-0131</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

常なる不景氣に陥るの事實を指摘せられて居る。而して戦争の生める是等幾多の痛手でこそ纏て現時に於て平和論の旺盛なる所以であるとなさるゝと共に、實際平和運動の不十分不徹底なるを慨せられ、其見地より諸國が未だ盡さざる點を指摘して、第一、「海軍が華聖頓會議の決議に據つて縮少され、續いて海軍休日に行はれる以上は陸軍も亦た當然縮少されなければならぬ譯である」。「然るに今日列國の内に平和主義に就くと稱しながら遙に護國の必要に超越する程度の陸軍を擁して平然たるものあるは如何。

第二、「既に列國が世界平和を理想とし、之を實現することに終始する以上は、經濟政策上にも大なる變化を生ず可き道理である」。即ち「列國は互に自他の腹中に飛入つて、出來得る限り相寄り、相助けて其間に國際經濟共通の實を擧げ可き道理である」。然かも列國の爲す所は殆んど反對の方向に向つて居るの状あるは如何。

第三、「從來世界を通じて居るの状あるは如何。國主義の行はれて已まなかつたのは資本主義の如く結論されて居る。

「人間的愛情を以つて現在の經濟的關係を律することは、世界平和を永遠に維持する所以と爲るものであつて、此點に於て缺くる所があつたならば世界平和を維持することの如き遂に一片の空想に歸せざるを得ない。内に資本主義が跋扈して資本の力を以つて勞働を虐げる、外に經濟的帝國主義が行はれ一國の資本的勢力は他國に迫つて其國の國民を何處までも未開國民扱にして、其勞働を奪取すると云ふが如き、何とんでも人類愛の精神に缺けた所業であつて、此點に顧みる所がなかつたならば、國際間の條約や協定で維持される世界平和の如き畢竟表面を飾る道具たるに過ぎず、何時其内部に大なる龜裂を生ずるか測り知るを得ない。吾人は斯る状態を以つて、満足するものではない。如何にして人類愛を以つて經濟的關係を律するか、又如何にしたならば、經濟上の方面から、人類愛を發揮せしめ得るに至るであらうか、此二點は今後吾人の深く思を致す可き所である。」

跋扈之を然らしめたのである」。「然らば世界平和を永遠に維持しようとか、又は其確立を謀らうとかする場合には、吾人は其根本的政策として、資本主義を基礎とする從來の經濟組織に或る制限を加へることを以て急務であると考へざるを得ない」。然るに此方面に於ける努力に見る可きものなきは此は是れ畫龍點睛の功を缺くものであらう。

第四、「列國が世界平和の維持されることを希望し又各國協力して其維持に資しようとする以上は、一方に世界の諸國を擧げて一の經濟單位とする位に、經濟共通の道を開く他の一方には、國に依り、人種に依り經濟上の關係に於て一切の差別的待遇なからしむることを必要とする」。然かも白哲人種の黄色人種に對する、英國の印度に對する否更には聯合國の獨逸に對し、露西亞に對する其諸々の態度の如きは決して如上の趣意に合するものではない。畢竟一國と云ふ狭き殻を脱して廣く人類を愛すと云ふ精神に缺けて居るが爲めであるとせられ、斯くて最後に左

即ち纏て堀江博士の立脚地をなすものであるが博士は果して此高所大局より如何に前記の諸問題を論究せらるゝのであるか？此間に答ふるには單なる紹介以上に歩み入らざるを得ないからして今は吾人に於て之を敢てせずとして、讀者自らが博士の此著に就て親しく討究せらるゝことを深く希望する。評者は唯其自己に益する所甚だ大なるものありたるを茲に附言し置くに止りんとす。

慶應義塾大學 經濟思潮講演集

菊版四四〇頁  
定價貳圓  
岩波書店發行

慶應義塾大學經濟思潮講演集は大正十年八月一日より八日間に亘り慶應義塾大學講堂において開催せる經濟思潮講演會の節記録を收めたもので、收むる所

氣賀勘重教授 總論及自由主義  
小泉信三教授 科學的社會主義

阿部秀助教授 講壇社會主義

堀江歸一教授 國家資本主義

増井幸雄教授 ソリダリズム

三邊金藏教授 ギルド社會主義

高橋誠一郎教授 社會主義的理想とその實

現

の七講演筆記と鎌田塾長の挨拶「勞資協調の標準如何」とである。近年經濟思想や社會思想に關する論議が諸新聞雜誌を賑はしてゐるにも拘らず、吾々は系統的にこれらの諸思潮を解説批判した良書あるを聞かない。勿論この種の書類は外國語を以て記されたものに求めても甚だ僅少なのは疑ひのない事實である。ゾムバルトの「社會主義並に社會運動」カアル・デイルの「社會主義、共產主義並に無政府主義」の如きは、僅少なる良書中に數ふべきものであらう。たゞ邦語を以て記されたものの絶無もしくは、良書のないことは吾々の甚だ遺憾とするところである。然るに本講演集の出版は吾々の遺憾の大部分を除去したのである。以上の七講演者はその受持

る。次に小泉教授は科學的社會主義を解説、批評する。教授は先づマルキシズムとは何かを極めて明確に解説し、これに對する批評として唯物史觀の認識論的批評として一頭地を抜いてゐるルドルフ・シュタムラアの見解を紹介し、次に經濟學說殊に價值論の批評家としてのポエーム・バヴェルクを擧げる。その有名な勞働價值論の批評、勞働價值論と平均利潤の問題即ち資本論第一巻と第三巻とにおける價值論の矛盾に關する説を紹介し、更らに資本集積に關するベルンシュタインの批評を紹介してマルキシズム並にその批評の講演を終る。第三席阿部教授の講壇社會主義は、獨逸における自由主義の經濟學に對する反動として、七十年代において同國の若き教授等が相會して社會政策學會を組織したるに始まる顛末を述べ、講壇社會主義がワグナーの云ふが如く消極的の一致のみ存するに拘らず、同國における經濟學の歴史的研究を共に繁榮に赴き、千九百十年前後における同主義に對する實際的並に理論攻撃の論據とその近時にお

の演題に對しては、常に興味を感じ、研究に従事されてゐる人々である。高橋教授も云ふやうに「或る方は其思潮に大に興味を以て研究せられて居ると云ふ所から、それをお選びになりました。それから又、他の方は其思潮に共鳴する所が甚だ大であると云ふ所からそれをお選びになりました。更らに又其れが自己の奉ずる所の主義であると云ふ所からお選びなつた方もありませう」。かくの如く各講演者は各々その得意とする題目に就いて講演したのである。吾々はこれ以上有力な内容の正確と云ふことの證據を提示し得ない。試みに各講演に就いて一二言を述べれば次の如くである。

氣賀教授の總論及自由主義は、經濟政策の最初の表現とも云ふべきマアカンチリズムの思想から、これに反する自由主義思想の勃興の事情、その本質を述べ、更らに人格の自由完成を主張する自由主義の適用が種々なる社會的害悪を生んだ徑路並にこれに對して起つた反自由主義の思潮を解説して、續々諸講演の基礎を作つてゐる。其の凋落とを明かにし、最近の革命以後における同國産業の社會化問題によつてその精神は生きてゐるものと結論した。堀江博士の國家資本主義は博士が社會問題解決の方法として信ずる所を述べたものである。先づ前篇において現時の社會において一部特權階級が社會の利益の大部分を壟斷することを明示し、これを救ふの道は自由主義にあらずして、國家資本主義にあることを斷定した。さうして國家資本主義とは「國の資本或は資本的經營、それを國家の所有にしまして、さう云ふものから、私人が色々獨占的の利益を貪る弊害をなからしめ、國有になつた資本なり、資本的經營に對して眞實生産者なる勞働者團體の意思を尊重して、其の經營をして往く」ことである。政治上のデモクラシーを經濟上、社會上に擴充して往かふと云ふ博士の眞意であり、さうして國家資本主義の採用を以てするのが「一番正しい方法」と考へるのである。増井教授の社會連帶主義は佛國における一の社會思想で「自由主義における科學的研究に

も悖らず、又社會主義における倫理的、道德的の要求をも退けず、能く兩者の長を併せたる一體の総合的學說」である。教授はこのソリダリズムの主張を主としてレオン・ブルジョア、ジード等の思想によつて解説し、同主義の理論的根據、應用、同主義に對する批評、フランスにおける流行状態並にその原因を解説してゐる。次に三邊教授のギルド社會主義であるが、教授はギルド社會主義の諸分派即ちアーサー・ペンティ並にその亞流たるテイラーの復古的ギルディズムを先づ紹介し、更らにそが決して社會主義と云へざることを論斷し、講演の大部分をコールのギルド社會主義に費し、彼は寧ろ集産主義的なりと斷じてゐる。さうしてホブソン、レッキット等の説を解説批評してゐる。吾々はこれによつてギルド社會主義の諸分派を一望の内に收め得るのである。最後の高橋教授の社會主義的理想とその實現は、古代ギリシヤの昔から、科學的社會主義の現在に至るまでの諸思想家、諸思想の社會主義的理想に對する態度を明かにし

た。二千數百年の社會思想に對する教授の見解を一々こゝに紹介するのは至難のことであるから、これを省略するが、讀者がもし、同教授の「昨年の講演」經濟思想上より見たる財産制度」と併せ讀まれれば、社會思想の大要を學び得るであらう。

これらの講演は講演者の得意とする所を解説し、且つ批判したものであり、その諸思潮は經濟思潮上の重要なもの許りである。初學者はこれによつて、研究の指針を得、既に研究に従事せることある者は記憶を新らしくすることが出来るであらう。もしそれ、この講演に空想的社會主義、土地社會主義、無政府主義、基督教社會主義、サンデカリズム、ボルシェヴィズムに關するものを加へんか、完璧な社會思想史を構成することが出来たであらう。然し、吾々のその完成せらるゝの日を待つことの切なるは、隨を得て蜀を望むの情に過ぎない。

(加田 哲二)

### 前號(第十六卷)目次(大正十一年十月號)

#### 論 說

チャールズ・ダヴェナントの經濟策 高橋誠一郎  
 物價問題に關する二三の考察 堀江 歸一  
 近世資本主義起源考續論(三) 阿部 秀助

#### 雜 錄

エンゲルスのロオドベルトス批評(一) 小泉 信三  
 ウチリアム・モリスの共產主義(三、完) 加田 哲二  
 自然的課税の主張者(一) 金原賢之助  
 失業救済施設に就いて(二) 園 乾治  
 基督教社會主義者としてのキングスレー 横濱 禮吉

#### 新刊紹介

遠藤友四郎氏「無政府共產主義の根本批評」 加田 哲二  
 野村兼太郎譯「英國經濟史及學說」上卷 金原賢之助

●一冊定價金五拾錢 郵税金貳錢  
 ●半年分金貳圓九拾錢 郵 稅 共  
 ●一年分金五圓四拾錢

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛  
 ●營業に關する用件は發賣元宛  
 ●原稿締切期日は發行の前月十日限

大正十一年十月廿一日印刷納本 每月一回一日發行  
 大正十一年十一月一日發行

三田學會雜誌 第六十卷 第十號  
 編輯者 江 田 範 保  
 發行所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地  
 印刷者 金子 鐵 五 郎  
 印刷所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地 金子 活版所

發賣元 東京市芝區三田貳丁目壹番地 國文堂書店  
 電話高輪一三七番 振替東京四六九四九番

●尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會